

令和3年1月29日

山口市議会議長 坂井芳浩様

山口市議会議会改革検討協議会
会長 山本貴広

山口市議会改革に関する検討結果について（答申③）

令和元年11月1日付で議長から諮問のあった山口市議会改革に関する検討事項のうち、一定の結論に達した事項について、下記のとおり答申します。

記

1 答申事項

各会派から提案された議会活動の充実強化のための改革に関する事項のうち議長が必要と認めた諮問事項のうち、以下の2項目。

諮問事項1-1 定数と報酬について（議員定数）

諮問事項2 議員定数について

2 答申内容等

別紙のとおり

3 添付資料

- ・令和2年11月8日議会改革フォーラム及びフォーラム録画配信による議会改革に係るアンケート集計結果

<p>諮問事項 1-1 諮問事項 2</p>	<p>定数と報酬について（議員定数） 議員定数について</p>
<p>提案趣旨等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本市においては、「議員の定数条例」が制定されていない。1市4町が合併して15年が経過する中で、議員定数や議員報酬のあり方について議論はなされていない。今後、本市議会の定数条例づくりや議員の報酬についても検討していく必要がある。 ・近年の低投票率に加え、人口減少、議会への関心の低さ、議員の職責等多方面から鑑みるに、近隣自治体の多くが議会改革の一環で定数削減に踏み切る中、県都山口も適正な人数において議論を深めるべきである。
<p>答申内容</p>	<p>本市議会の議員定数については、議会改革フォーラムなどを通じ、市民からいただいた御意見・御提案等も踏まえ協議を重ねた結果、下記の事由により、34人が適当であるとの結論に至った。</p> <p>なお、協議の過程において、今後の人口減少や財政状況、議会改革という点を考慮すると、32人が適当であるという意見も出されたことを付記する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市では、都市政策の柱として「広域県央中核都市づくり」と「個性と安心の21地域づくり」の2つを掲げ、山口県央連携都市圏域の各市町、山口都市核と小郡都市核、そして市内21地域がつながり、共に発展するまちづくりを目指している。 ・県都山口として広域的な観点からのまちづくりに加え、1市5町の合併により、広大な市域（1,023平方キロメートル。全国29番目）となった本市において、都市部も農山村も共に発展するまちづくりを進めていくためには、議会としても、合併後の新市の一体感の醸成が十分とは言えない現状を踏まえ、多種多様な市民の意見・要望を反映し、住民自治を充実させていく必要がある。こうした状況下において、議会としての機能と役割を果たしていくためには、最低でも現状の4常任委員会・各所属委員8～9人を維持していくことが適当であり、多様性を重視した討議を行うなかで、議案審査や所管事務調査にあたっていく必要がある。 ・本市と人口規模や面積等が類似した近隣の団体と、議員一人当たりの住民数（約5,700人）・面積（約30平方キロメートル）などの数値等で比較しても、議員定数34人は多すぎる数ではない。また、全国的に急速な人口減少が進むなか、現在、本市の人口は約195,000人であり、阿東町が加わった10年前（約197,000人）と比較しても約2,000人の減少にとどまっている。こうしたことを考慮し、現時点において、議員定数の削減については慎重に行うことが適当である。 <p>※市民からいただいた御意見については、「令和2年11月8日議会改革フォーラム及びフォーラム録画配信による議会改革に係るアンケート集計結果」としてまとめたので、これを添付する。</p>

附帯意見等	<ul style="list-style-type: none">・議会や議員に求められる役割もさらに多様化し、多岐にわたることが予想されることから、今後も議会改革の取組を推進するとともに、議員の資質向上に努めていく必要がある。・議員定数については、今後の人口動態、財政状況、その他本市議会を取り巻く状況等の変化を注視しながら、引き続き検討していく必要がある。なお、検討にあたっては、議会改革や議員の資質向上に向けた取組の成果を踏まえた議論が重要となることから、今後も議会改革等の取組を積極的に進めるなかで、その成果を検証しながら、議員定数に係る議論を深められたい。・議会改革フォーラム等を通じていただいた様々な御意見・御提案は、本市議会に対する貴重な御意見であることから、これを真摯に受け止め、今後の議員活動及び議会活動に生かしていくものとする。
-------	---